

# 乳幼児とのふれあいから未来設計を ～光市未来のパパママ応援事業～

教科・領域 総合的な学習の時間

光市立室積中学校 3 学年

## キャリア教育の観点

この取組は、乳幼児とのふれあいを通して、赤ちゃんの可愛さや命の不思議さを実感させ、命の尊さ、自分自身や他者への愛着の感情を深めさせることを目指します。

また、自分自身を振り返るとともに、親への感謝の気持ちなど親子関係を見直す機会の場を設定することで、将来、自分が親になることについて肯定的に感じることができるよう促す活動でもあります。

ねらい





乳幼児とのふれあいを通して

- ① 命の不思議さ、尊さを実感させる。
- ② 自己理解や他者理解を深める。
- ③ コミュニケーション能力を養う。

【人間関係形成・社会形成能力】 【自己理解・自己管理能力】

## 活動内容

回	内 容	日 程	場所・学習形態	講師等
1 次	オリエンテーション 事前アンケート	6月11日(火) 6校時	本校体育館 学年全体で実施	本校教諭 市子ども家庭課
2 次	いのちの授業 生命が宿る様子や胎児の成長など、命の神秘性、大切さを知る。また、望まない妊娠や性感染症などについても知る。 	6月22日(金) 5・6校時 講義・感想	本校体育館 学年全体で実施 教室で感想 	山下ウイメンズ クリニック 助産師 高杉敏子先生 演題 「いのちのはじまり、いのちのつながり」
3 次	赤ちゃん講座 妊婦体験や赤ちゃんの世話の仕方を実習形式で学習する。 新生児訪問(産科見学/産後の母子)	7月10日(火) 11日(水) 12日(木) 5・6校時 講義・見学 体験・感想	梅田病院 ※バス移動 ※クラス単位 ※教室で感想 	助産師

				
4次	<p><b>赤ちゃんふれあい体験</b> (乳児と母親)</p> <p>赤ちゃんを抱いたり、あやしたり、子育て中のお母さんに話を聞いたりして、赤ちゃんのかわいらしさ、育児の楽しさや大変さを体験する。</p> <p>親から自分の赤ちゃんの頃の様子を聞き、大切に育てられたことを知る。</p>	<p>9月18日(火)</p> <p>19日(水)</p> <p>20日(木)</p> <p>3・4校時</p> <p>体験・感想</p>	<p>あいばーく光 (健診ホール)</p> <p>※バス移動</p> <p>※クラス単位</p> <p>※教室に戻り感想</p>	<p>保健師</p> <p>母子推進委員</p> <p>母親クラブ</p> <p>子育てボランティア</p> <p>子育て家庭(親子)</p>
5次	<p><b>園児との交流(幼児)</b></p> <p>園児との交流を通して、コミュニケーションの取り方や表現力を身につけ、子育ての楽しさや大変さを体験する。</p> 	<p>11月28日(水)</p> <p>29日(木)</p> <p>30日(金)</p> <p>2・3校時</p> <p>講義・体験 感想</p>	<p>松原保育園</p> <p>※徒歩移動</p> <p>※クラス単位</p> <p>※教室で感想</p>	<p>保育士</p> 
6次	<p><b>まとめと発表</b></p> <p>これまでの学びを新聞形式でまとめ、体験の内容を全校生徒等に紹介。</p>  	<p>10月28日(日)</p> <p>文化祭開催日の20分間</p>	<p>本校体育館</p> <p>学年全体で実施</p> <p>教室前廊下展示</p> <p>(体験内容や写真をスライドで紹介)</p>	<p>本校教諭</p> 
7次	<p><b>体験ふりかえり</b></p> <p><b>事後アンケート</b></p>   	<p>12月3日(月)</p> <p>6校時</p>	<p>本校体育館</p> <p>学年全体で実施</p>	<p>本校教諭</p> <p>市子ども家庭課</p>

(留意点)

- ・アンケートの実施や感想文の継続実施により、振り返りの充実を図る。(生徒全員にファイルを配布し、作成物の管理を子どもたち自身で行うことで、事業成果を絶えず実感させる)
  - ・文書で保護者へ学習の趣旨等を説明し、子どもが生まれた時の思いなど、子どもへのメッセージを寄せていただく。(生徒には知らせず、7次の最後に渡す。)
- ※数例、全体に紹介するため、匿名で手紙の内容を紹介してよいかを確認しておく。
- ・学習プリントや資料、感想等をファイルに綴じ、体験時の写真を添付して、振り返りや思い出が残るようにする。
  - ・事前、事後アンケートの他、評価、まとめについては、個人情報保護の観点から、関係機関と協議の上、冊子にまとめる。
  - ・文化祭において、展示・体験コーナーを設ける。
  - ・生徒がこのような体験活動を行うことに関して、保護者へのアンケートを実施する。

## 考察・課題

命の尊さを実感し、自分を大切に思う気持ちや人への思いやりの心、家族へ感謝の気持ちを育み、近い将来、自らが親になるまでの過程を肯定的に感じていた。また、新聞にまとめたり文化祭で体験報告したりするなどの活動を重ねることで、まとめのスキルも大きく向上した。

体験場面では、生徒たちは、優しい言葉遣いで自分の気持ちを伝えたり、乳幼児たちの気持ちを理解したりすることの難しさを肌で感じていた。この体験により、親への感謝の心が大きくなるとともに、将来の自分の責任についても考える機会となった。

今回、光市の事業への参加という形態であったので、人材や施設、場所等の手続きがスムーズに進み、様々な実習を行うことができた。しかし、本事業は市内中学校で毎年数校ずつの割り当てのため、体験できる学年が限られてしまう。大変有意義な体験であるので、本事業が継続・拡大され、すべての中学生が体験できると、さらに事業の効果が高まると考えられる。

## 全体計画との関連

本校のキャリア教育は、学校教育目標『将来の夢や目標に向かって挑戦し続ける「むろづみっ子」の育成』を受け、まず自分を知り、そしてどのような未来を拓きたいかという夢をもち、それに向かって努力する生徒の育成をめざし、各教科・領域等で様々な活動を展開している。

本取組は技術・家庭科の保育領域、保健体育の感染症、学級活動での性教育等を総合的な学習とリンクさせ、ほぼ同時期に横断的に取扱い、将来、それぞれが幸せな「家庭、家族」観をもち、そのためにどのように生きていくかを真剣に考えるきっかけとなることもねらっている。これは、「仕事に就く」「家庭をもつ」「家族を養う」という生き方そのものを見つめさせたいからである。また、将来仕事をするエネルギーは、やはり幸せな家庭、家族により、心の状態が安定している場合に大きくなると考え、キャリア教育の柱として取り組んだ。

## おわりに

今回、市の事業との連携という機会を与えていただいたおかげで、子どもたちの学習が深まり大変感謝している。また、体験の与える影響の大きさを改めて痛感した。そこで、このような機会がない場合でも、学校として、今ある環境の中でどのように工夫すれば、子どもたちの学びを深めることができるのかを全教員で見直す必要があると感じている。